



7月17日にレベルⅡ研修を行いました。  
レベルⅡでは、「根拠に基づいた看護実践（看護過程の展開）を通して、自己の看護観を高める」を教育のねらいにしています。そして各自の看護実践をケーススタディとして取り組みます。  
今回は、ケーススタディに取り組むきっかけづくりとして、自分たちの看護実践と、患者・家族の思いをケアに反映することについて語り会いました。



## 研修の内容

### ・意見交換：看護実践で経験したこと

これまでの看護実践で心に残っていること、今取り組んでいる看護について語り合いました。

### ・意見交換：患者・家族の思いや希望を看護ケアに反映すること

患者や家族の思いをどのようにキャッチして、看護に活かすか。受け持ち患者さんへの思いが熱く語られました。



体温調節が難しい患者さんの体温管理に悩んでいる

低酸素脳症後の児の発達にどう関わったらいいか

離床やリハビリへの意欲を引き出したい

危険行動を防止するのに、行動抑制や拘束に頼らないケアを考えたい

患者さんのことをよく見て、関心を寄せていることが伝わりました！

## 研修生から出た意見

- ・他の意見をきくことでどのように情報を得ていくか知ることができた。
- ・話し合いの中でケーススタディのアイデアを得た。取り入れて看護実践していきたい。
- ・他の意見を聞いて、新たな発見があった。
- ・家族の代わりにはならないが、看護師として関わっていくことが大切と思った。

## 病棟へ

ケーススタディに取り組むきっかけは得られたでしょうか？  
すでに受け持ち患者さんで看護展開したり、悩んだり、壁にぶつかったりしている姿も見られました。  
看護の力で患者さんが良い方向に変化すると、自分たちの自信にもつながりますね。だけど、一人ではできないのも看護の特徴で、チームの協力・参加が必要です。患者さんの笑顔や健康のために取り組んでいきましょう。これをきっかけに、病棟全体の看護の質向上も夢じゃないかもしれませんよ。  
次回の研修では、文献検索などまとめに向けた内容を予定しています。